

衛生看護分校の記念碑

桑高に衛生看護分校があった。衛生看護科(3年)と専攻科(2年)の計5学年各40人ずつの定員で、総計200人のこじんまりとした分校であり、独立した校舎を持ち、広い運動場やテニスコートもあった。正門の正面に築山があって、その上に「慈恵」と彫り込まれた石碑があり、分校のシンボルとなっていた。この築山は1979(昭和54)年の建設で、当時の桑高校長である沢下春男先生が碑の揮毫をしている。

ところが、2008(平成20)年、この分校の校舎を特別支援学校に転用することが決まった。そして2011年3月末をもって分校は廃校となって、衛生看護課程は本校に移転することになった。ここに分校があった証しとして

三重県立
桑名高等学校
衛生看護分校
1974年4月～2011年3月

と刻んだ記念碑が建立された。

2011年度に入ると、分校の校舎の大改造が実施された。築山は無残にも壊されてしまった。私は分校近くの月井整形外科へ毎日のようにリハビリに通っているが、「慈恵」碑はどうなったかと覗いたら、隅に転がしてあった。

改造工事が終わり、2012年4月から三重県立くわな特別支援学校が開校した。校内を覗いたら、校舎の北側に小さな庭園があり、そこに「慈恵」碑が建てられ、分校記念碑も傍らにあった。分校にあった他の碑もすべて残ってい



くわな特別支援学校正面



左が分校記念碑、右が「慈恵」碑

築山は崩され、送迎バスの駐車場となる

て、ほっとした。

石碑は朽ちずに永く残るので、記念碑として最適であり、桑高創立百周年の記念でも石碑の建立が企画され、それなりに予算も計上された。企画案も公募されて、審議がなされたが、学校側からストップがかかった。それは東北大震災によって学校の防災計画の見直しが必要となり、校内の建造物の配置が再検討の必要に迫られたからである。それに関連して、昨年同窓会幹事総会で、記念碑案は白紙となり、百周年記念事業は今後再検討することになった。

学校の防災計画が決まるまでは、新しい記念事業の検討も始まらないが、私は桑名市立高等女学校の記念碑が必要だと、かねがね思っている。桑高に関連する桑名中学、県立桑名高等女学校、衛生看護分校とも、創設の地に記念碑が建っている。しかし桑名市立高等女学校は記念碑がない。この学校は立教小学校の一部を使っていたので、立教小学校の校内に建てさせてもらうのが最適であろう。簡単な石柱程度なら大した経費もかからないと思う。